1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570200917		
法人名	医療法人 誠心会		
事業所名	グループホーム小松原	ユニット名	2号館
所在地	都城市小松原町1161-3		
自己評価作成日	H26年4月14日	評価結果市町村受理日	平成26年7月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4570200917-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年5月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が作り上げた理念を事業所内に掲げ、日常的に意識する事で実践に繋がっている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭り等の行事には積極的に参加したり、近隣の美容室を定期的に利用する等、生活の一部になるよう交流している。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方への情報発信は、運営推進会議での報告以外、特に行っていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、外部評価の意義や結果を議題として取り上げ、サービスの質の向上に努めている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に、市の担当の方より意見やアドバイスを受けており、ホームの活動状況も伝えている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルがあり、身体拘束の定義を正しく理解し、利用者が心身共に明るい生活を送れるように取り組んでいる。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士で日頃の対応に関して、互いに客観的に見直し、指摘し合うように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	H25年度の運営推進会議にて議題に取り上げ、資料にて職員間で情報共有は行ったが、活用する為には再度職員への勉強会を要する為、今後実施していきたい。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、お互いにしっかりと話をすることで理解、納得した上での契約締結、解約を図っている。改定等は都度文書にて郵送、説明している。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情処理担当者を置いており、研修会への参加もある。ご家族へ向け、ホーム便りを発行した事により、以前よりホームでの状況が分かり易く意見、要望も出し易い状況ではあると考えられるが、具体的な要望は現時点では出ていない。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者(管理者)が常に職員会議に出席している為、意見や提案等その場で検討、意見交換し易く、改善可能な物に関しては、柔軟に対応している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常勤職員や非常勤職員を十分に配置し、職員が心身共に余裕を持って勤務に当たる事の出来るよう配慮している。また、時間内に仕事が終わるよう働き易い環境作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や力量に合った研修参加の機会を設けている。また、希望する研修がある場合は、県外であっても勤務に支障がない限りで、受講出来るようにしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都城市内のグループホーム定例会があり、意見交換や情報交換の場に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所決定時にご本人の現状と、要望等を把握し、計画を作成。入所初期にご本人と多くコミュニケーションを取り、情報を引き出すと共に、他者とのコミュニケーションの仲介、ホームの一員としての居場所作りに尽力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から入所後も、対話にてご家族の要望、意見を聞き、互いに相談し合い、チームとしてご利用者を支えていけるよう、来苑時、雑談から情報交換まで、多くのコミュニケーションを取るよう心掛け、信頼関係の構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時より、聞き取りをしっかりと行い、ご利用者の現状を正確に把握する事で、必要なサービスの利用が出来るよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は押し付け、恩着せがましい介護にならないよう、自身の目線の高さや表情、仕草に気を付け、ご利用者の人生経験と、知識の豊富さに敬意を払い互いに支えあう関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来苑時、近況報告を行い、意見や要望を介護計画へと活かしている。また、普段よりコミュニケーションを多く取る事で、ご利用者に関する課題で、職員だけでは良い結果に導けない場合には、ご家族の協力を得る事が出来ている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、墓参りに行かれる事もある。また、旧友や遠方のご家族へ宛て、写真付きで賀状や手紙を送る支援もしており、返信が来る等、ご本人はもちろん、お相手も喜ばれている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて職員が仲介し、穏やかなコミュニケーションを取る事が出来るように支援している。また、レクリエーションでは、一致団結して参加出来るゲームを計画し、仲間意識を持つ事へ繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後での相談、支援を行ったケースは無い。今後、そのようなときの用意はある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での本人様からの言葉や、様子を感じ取り、希望、意向に近付けようと努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様から伺ったり、家族の方から聞き取りを行い、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方らしいホームでの過ごし方、時々に変化する状態に対応しながら、現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での意見交換、日々の本人様の様子、家族様との話し合い等、多くの情報の中からより良い介護計画の作成を行っている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日誌等、日々記入を行い、情報共有を行っている。また、申し送りを活用し、職員間で意見、アドバイスを行いケアに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の心身状態に応じたサービスが行えるよう、また、家族の方からの希望、要望に対応できる様取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんに来て頂いたり、夏祭り等に参加し、地域社会と交流を持ち続ける事が出来るよう努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者、ご家族が希望する場合は、かかりつけ医を受診し続ける事が出来るよう支援し、自苑と医師、看護師間の情報共有に努めている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同敷地内に医療機関がある為、随時報告、相談できる状況。必要時迅速に対応してもらう事が可能である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至った場合、早期退院に向けて文書や口頭での情報交換、落ち着いて治療に専念できるように環境への配慮、工夫をする等、医療機関とコミュニケーションを取りながら、協力体制が取れるように努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針として原則、終末期ケアは行わない事を説明しているが、ご本人、ご家族の意向を踏まえた上で、協力医と連携を取りながら、状況に応じて対応している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会の開催もあったが、訓練までは出来ておらず、今後実施出来るよう努めたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、消防署の立会いで訓練も含め、定期的に避難訓練を行っている。備蓄もしており、地域との協力体制を改めて構築していく予定。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けを行っている。その方がどのような声掛けでやる気をだしたり、不快に思ったりするのかを考えながら声掛けをし、常に笑顔で対応できるよう努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人ひとりとコミュニケーションを通して、その中から希望、思いを汲み取り、本人と一緒に考えながら行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族の意見や利用者の希望を聞き入れ、支援を行っている。一人ひとりのペースに合わせた行動をしてもらい、1日楽しく過ごしてもらっている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が長くなれば散髪を頼んだり、ゴム等で髪を結んだりして髪型を変え、おしゃれを楽しんでもらっている。服はご利用者に確認して好みの物を準備している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に出来る方は共に作業をもらい、出来ない方も一週間ずつ、食事時の挨拶当番を担当してもらい、皆と楽しく食事できている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	たくさん食べられる方、少量しか食べられない方を把握し、量を調節している。水分も一人ひとりに合わせた飲み物を提供し、水分摂取量を確保している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行ってもらい、義歯の方は夕食後に洗浄剤を使用し、浸けている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子の方でも、体調不良などが無い場合はトイレへの誘導を行っている。頻りに声掛けを行い、失禁回数を抑え、ご本人の気落ちを防ぐ事が出来るよう心掛けている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方や腹圧を上手く掛けられない方には、腹部マッサージを行っている。便が固めの方には、水分を多めに摂ってもらえるよう声掛けをしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	足が不自由な方でも、湯船に浸かれるように介助しながら、入浴できる方は全員出来るようにしている。入浴が好きな方は、毎日入浴など、その人の希望に添えるようにしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方それぞれに合った空調管理をし、気持ちよく眠れるようにしている。それぞれに就寝時間が違う為、その方にあった時間に誘導、介助する。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用などを把握し、決まった時間に服薬する。新しい薬に変わった後、症状が変化した場合、医師、看護師に報告、相談している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	元気な方には、掃除、洗濯物干し、皿拭き等の作業に参加してもらっている。行事毎にスタッフと共に壁面等の制作をしてもらい、季節を感じつつ楽しんでもらっている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の方等は、車に乗り切らず中々外出する事が難しいが、季節毎に出来るだけ大勢の方が外出できるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	2号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在ホームでお金を預かり管理している。買い物時、支払いは利用者の能力に応じ職員と一緒にいたり、様々である。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けて欲しいと利用者様の希望がある時、職員からご家族に電話を掛け、取り次ぐ場合もある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下の壁には季節感のある飾りや利用者様の作品、写真を飾り楽しんで頂いている。利用者様の立場になり、共用空間作りとして温度調節、清潔感に気配りしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での1人の空間というスペースは設けられておらず、それぞれ自分の時間を居室で過ごされている。廊下の奥にベンチを設置しており、そこに座り外を眺めている利用者様もおられる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族が馴染みのある物や写真を持参して下さる為、それらを飾り、居心地良く過ごす空間作りを行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	都城市内のグループホーム定例会があり、意見交換や情報交換の場に参加している。			